

2

国際交流、複言語教育、教育の情報化と私立学校

— 近代日本における外国語教育 —

山 崎 吉 朗 (日本私学教育研究所 専任研究員)

1 はじめに

本年度の研究は、国際交流、複言語教育、教育の情報化の3分野に亘って行った。まず、その成果の概略を示し、国際交流、複言語教育に関連する「近代の外国語教育」の研究の一部を報告する。

2 本年度の研究の概略

1 国際交流

4年前から継続してきた東京私学による CCAD（当時はブリティッシュカウンシル主催）という国際交流は、すでに2年前にプロジェクトが終了したにもかかわらず、生徒が中心となり、現在も定期的に発表会や講演会、web 上での韓国との国際交流を継続している。現在はクロススクールという名称で、麻布、鷗友、早稲田高等学院、西町インターナショナルスクール、聖心インターナショナルスクールで組織している。一方、日仏高校交流コリブリの今年度の短期交換留学は26組である。10月27日から11月17日までの3週間、福島原発事故処理の遅れから来日が1年延期されていた2011年度交換生と2012年度交換生、合わせて55名のフランス人高校生が盛岡から那覇までの17校に短期留学した。日本側からの派遣は2013年3月16日から4月7日までの3週間で予定している。

2 複言語教育

昨年の紀要で発足から現在までの経緯を述べた複言語教育研究会が発展し、昨年12月3日には一般社団法人日本外国語教育推進機構 Japan Council on the Teaching of Foreign Languages (JACTFL) を設立するに至った。次の課題解決を目標とする。

- ①多様な外国語教育関係学会・団体を横断的に結びつけ、連携・協力を図る組織をつくる
- ②多様な外国語教育に係る活動についての情報を幅広く提供する場を設ける
- ③中等教育、特に高等学校における多様な外国語教育の普及を制度的に推進する

3月2日には上智大学で、シンポジウム「外国語教育の未来を拓く（上智大学国際言語情報研究所、一般社団法人日本外国語教育推進機構（JACTFL）主催）」を開催する。

3 教育の情報化

今年度も日本教育工学会全国大会（於長崎大学）で「グループ活動を中心に ICT を活用した多人数授業の授業設計」という研究発表を行った。

3 近代日本の外国語教育

新しい学習指導要領の実施により、平成23年度（2011年）には小学校の外国語活動が導入され、平成24年度（2012年）には中学での英語の時間数が週4時間になり、全科目の中で一番多い時間数となった。そして、次年度（2013年）から、高校では「英語による英語の授業」が始まり、段階的に高校全体が「英語による英語の授業」となる。グローバル化に対応するという急進で急速に進んでいるように思われるが、ここで振り返り、明治以降の外国語教育がどのように行われてきたのかをみることは重要であろう。なお、視点は「英語」教育ではなく、「外国語」教育である。

明治5年に近代日本の教育制度のスタートとなる学制が公布されるが、その前の明治2年2月には「府県施政順序」が公布され、そこに「小学校を設くる事」という一条が制定された。それを受け、京都府は5月に小学校を設けている。翌年の明治3年2月には、「小学規則」で、「子弟凡そ八歳にして小学に入、(…)子弟凡そ十五歳にして(…)中学に入る」と規定された。外国語教育として注目されるのは、学科の中の「語学」が英語に加えて、仏、独、蘭が選択できるとされている点である。

＜学科＞ 習字・句読・語学（英・仏・独・蘭）・算術（和洋）・地理学・作文・五科大意（cf.大学専門五科 数・法・医・理・文）

小学校での外国語教育は英語に限らなかったことがわかる。

小学校はその後、高等小学校では英語教育が行われていたが、紙幅の関係で、今回は中学校だけにしぼって、その推移を見てみる。

＜中学の外国語教育＞

明治の間は、頻繁に変更されていることがわかる。注目されるのは、1886年から1894年まで、「第2外国語」が設置されていたということである。文部大臣は森有礼である。「第2外国語」を廃止した文部大臣は井上毅で、国語の授業数を増やし、外国語より多くした。夏目漱石が1911年に、「過去の日本に於いて最も著しく英語の力を衰えしめた原因がある。それは確か故井上毅が文相時代のことであったと思うが、国語漢文を復興せしめた事がある。」と記している。『語学養成法』

年	名 称	備 考
1872（明治5）	学制	「外国語学」
1879（明治12）	教育令	
1881（明治14）	中学校教則大綱	「英語」
1886（明治19）	中学校令	「第1外国語」「第2外国語」
1894（明治27）	尋常中学校の学科及びその程度	「第2外国語」は削除
1901（明治34）	中学校令施行規則	
1902（明治35）	中学校教授要目	
1911（明治44）	中学校令施行規則	

大正、昭和の変更は下記のみである。英語以外の外国語が追加されたのが注目される。

年	名 称	備 考
1919（大正8）	中学校令施行規則	
1931（昭和6）	中学校令施行規則	「支那語」が追加
1943（昭和18）	中学校令	英語・独語・仏語・支那語・マライ語又は他の外国語

＜授業時間数の推移＞

次に授業時間数の推移をまとめた。終戦直前まで、現在の中学の時間数を終始上回っていることが注目される。国語、数学との時間数の変化についても注目してもらいたい。

1 1881（明治14）7月「中学校教則大綱」

学科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	計
外国語	6	6	6	6		24
和漢文	7	6	6	6		25
数学	5	4/2	2	2/0		13/9
週時間 計	28	28	28	28		

2 1886（明治19）6月中学校令による「学科及びその程度」

学科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	計
第1外国語	6	6	7	5	5	29
第2外国語	-	-	-	4	3	7
国語漢文	5	5	5	3	2	20
数学	4	4	4	4	3	19
週時間 計	28	28	28	28	28	

3 1894（明治27）3月「学科及びその程度」改正

学科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	計
外国語	6	7	7	7	7	34
国語漢文	7	7	7	7	7	35
数学	4	4	4	4	4	20
週時間 計	28	28	29	30	30	

4 1901（明治34）3月「中学校令施行規則」制定

学科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	計
外国語	7	7	7	7	6	34
国語漢文	7	7	7	6	6	33
数学	3	3	5	5	4	20
週時間 計	28	28	30	30	30	

5 1902（明治35）2月「施行規則」改正

学科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	計
外国語	6	6	7	7	7	33
国語漢文	7	7	7	6	6	33
数学	4	4	4	4	4	20
週時間 計	不明					

6 1911（明治44）7月「施行規則」改正

学科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	計
外国語	6	7	7	7	7	34
国語漢文	8	7	7	6	6	34
数学	4	4	5	4	4	21
週時間 計	29	29	30	31	31	

7 1919（大正8）3月「中学校令施行規則」

学科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	計
外国語	6	7	7	5	5	30
国語漢文	8	8	6	5	5	32
数学	4	4	5	4	4	21
週時間計	29	30	30	30	30	

8 1931（昭和6）1月「施行規則」改正

第1種「実業組」と第2種「進学組」に分ける。上段（実業）、下段（進学）

学科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	計
外国語基本	5	5	6	2-5 4-7	2-5 4-7	30
国語漢文	7	6	6	4 1-3	4 1-3	21
数学	3	3	5	2-4 2-5	2-4 2-5	21
週時間計	30	30	32	31-35 30-32	31-35 30-32	

9 1943（昭和18）3月「中学校規定」 4年制となる。3, 4年は実業科との選択

学科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	計
外国語	4	4	(4)	(4)		16
国語漢文	5	5	5	5		20
数学	4	4	4	5		17
週時間計	35	35	36	36		

4 おわりに

ほんの一部を概観したに過ぎないが、「第2外国語の設置」「外国語の授業時間数の多さ」「英語以外の外国語の選択可能性」等、現在より進んでいる部分もあるということに驚かされる。これに高等小学校、高等学校を加えると、さらに現在の英語偏重が際立っている。

さて、拙稿を終えるに当たり、現在の外国語教育の問題点を指摘し、グローバル化への提案をしているような文書を引用しておく。中学校を高等学校と読み替えると、戦前に書かれた文章とは思えない。城戸幡太郎（法政大学教授）の「外国語教育の問題点」と題された、昭和16年6月17日に東京日日新聞に掲載された記事である。これからの外国語教育改革に活かしたい。

「中学校が上級学校へ進学する予備校の如く考えられたために、特に外国語の教育が重視されたのであるが、それが単なる入学試験のための教育に墮したことが、外国語の教育を邪道に誘ったのである。」

「これからの日本人は島国日本に蟄居すべきではなく、広く世界に雄飛すべきであり、それには外国語の二つ三つは自由に使いこなせるだけの語学の力が必要である。」